

# 社会科学習指導案

指導者 神野 若菜

- 1 日 時 令和5年7月7日(金) 第6校時(15:05~15:55)
- 2 学年・組 中学校第3学年2組 計40名(男子17名, 女子23名)
- 3 場 所 中学校3年2組教室
- 4 題 材 名 第二次世界大戦と日本 太平洋戦争の開始—日本の南進—
- 5 題材について

本題材は、中学校学習指導要領(平成29年告示)社会歴史的分野の内容C近現代の日本と世界(1)ア(カ)第二次世界大戦と人類への惨禍の中でも、日本とアジア諸国の関係に重きを置いた授業である。1937年に始まった日中戦争が長期化する中で、日本は北進ではなく南進を行い、その大義名分として、日本の指導のもと欧米の植民地支配を打破し、アジア民族だけで繁栄しようとする大東亜共栄圏を構想した。だが、大東亜共栄圏の実態は日本によるアジア支配に近く、アジア地域の資源を獲得することも目的であったとされている。なぜ日本は南進したのか、大東亜共栄圏の範囲とアジア資源分布にはどのような関わりがあったのか、実際に日本はアジア地域を解放していたのかといった複数の視点から捉えることのできる大東亜共栄圏という題材を通して、生徒たちの歴史を考える視点を広げることができるようにしたい。

本学級の生徒は、授業にも前向きに取り組み、自分の思いや考えを表現することが得意ではあるが、学びの基礎である知識が抜けていることが多い。社会科の考え方に沿った意見を述べることはできるものの、いつ・どこで・何が起こったのかといった基礎的な内容の定着には課題がある。適宜これまでに学んだ内容の復習も入れながら授業を展開することで、分野を超えても社会科はつながっているということ意識させながら、知識に基づいた思考の大切さを実感させ、さらなる学習意欲の高まりにつなげたい。

指導にあたっては、日本が大東亜共栄圏を構想した目的が欧米の植民地支配を打破し、アジア民族だけで繁栄しようというものであったということを、当時のビラを見せながら最初に提示する。展開の中で、年表や当時の絵本、資源の分布図を用いながら、大東亜共栄圏がアジア民族の繁栄という側面よりも日本にとって都合がいいものであり、日本はアジア諸国を解放しようとしていたのかということについて、様々な視点から気付かせたいと考えている。周囲の生徒とともに考えさせる時間も取り入れながら、日本が大東亜共栄圏を構想した狙いについて、複数の視点から理解を深めさせたい。

## 6 題材の目標

- (1) 大東亜共栄圏や当時のアジア情勢について理解することができる。
- (2) 日本が大東亜共栄圏を構想した狙いについて、資料から当時の日本の立場やアジアの資源分布などを踏まえて理解することができる。
- (3) 資料を積極的に読み取り、自らの考えをまとめようとしている。

## 7 指導計画(全5時間)

時	学習内容
1	第二次世界大戦の始まり
2	太平洋戦争の開始—日本の南進—(本時)

3	太平洋戦争の開始ーアメリカとの開戦ー
4	戦時下の人々
5	戦争の終結

## 8 本時の目標

日本が大東亜共栄圏を構想した狙いについて、二つ以上の視点から説明することができる。

## 9 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
<p>1. 導入（10分）</p> <p><input type="checkbox"/> これまでの日本の動きや世界情勢を振り返る。</p> <p><input type="checkbox"/> 大東亜共栄圏の概要を理解する。</p>	<p>○日本が日中戦争に向かう様子や、第二次世界大戦の様子を振り返らせる。</p> <p>○インドに配布されたビラから大東亜共栄圏の理念を想像させ、それだけが目的だったのかということを意識させる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p><b>【課題】</b> 大東亜共栄圏を構想した日本の狙いについて考える。</p> </div>	
<p>2. 展開（35分）</p> <p><input type="checkbox"/> 『『ダイトウアキョウドウセンゲン』一部』、「1940～1941年の年表」から日本が南進した背景を考える。</p> <p><input type="checkbox"/> 「大東亜共栄圏産業分布図」から、日本が大東亜共栄圏を構想した理由について考える。</p> <p><input type="checkbox"/> 資料集から日本がどのようにアジア地域を支配していたのかを読み取り、日本がしていたことが「解放」だったのかについて考える。</p>	<p>○東南アジアは特に欧米の植民地であったため、ドイツの善戦や日ソ中立条約が結ばれたことで周辺の脅威が減り、東南アジアに進出しやすくなったことを理解させる。</p> <p>○アジアの資源について振り返りながら、日本のアジアの資源を獲得したいという狙いに気づかせる。</p> <p>○フィリピンとビルマは形式上独立しているが、他の地域は日本の軍政下にあることを理解させ、「解放」ではなくただ日本が支配したかっただけなのではないかという点に気づかせる。</p>
<p>3. まとめ（5分）</p> <p><input type="checkbox"/> 日本が大東亜共栄圏を構想した狙いを、授業の内容を踏まえて二つ以上考える。</p>	<p>◆授業の内容を踏まえて、ワークシートにまとめている。【思考・判断・表現】</p>

## 10 分析

本校社会科では、授業構想における社会科教師に必要な資質能力の一つとして、学習した内容を生徒が「多面的・多角的」に思考できるような、教科横断的な場面を設定する力をあげている。歴史分野では一つの歴史を取り上げても、当事者はどう思っていたのか、他国からはどう思われていたのか、経済や文化にはどのような影響を与えたのかといった複数の視点から考えることができる。どの歴史も見方一つではなく、あらゆる立場から考察しなければその歴史がもつ本質や意義を理解することにはつな

がらないということを、生徒が理解しながら学習していくことが重要だと考えている。

本時で取り上げた大東亜共栄圏は、「本音と建て前」「当時の世界情勢」「資源」「アジアの地理」といった複数の視点から様々な考察をすることができる、生徒の見方・考え方を広げることができる題材と考え、あえて大東亜共栄圏に焦点をあてる授業を行った。教科横断的という視点では、社会科以外の教科と横断することは難しかったが、「東南アジアの資源」という地理分野と「大東亜共栄圏」という歴史分野の、社会科内での分野横断的学習をねらって実践した。

本時で生徒に気づかせたかった大東亜共栄圏に関する複数の視点をまとめると以下のようなになる（表1）。

**表1 本時で生徒に気づかせたかった視点**

視点1	本音と建て前	アジアを欧米列強から解放するという目的と、日本の勢力下におきたいという目的が同時に存在していたこと。
視点2	当時の世界情勢	第二次世界大戦期であり、ヨーロッパでは日本と同盟関係にあるドイツが優勢であったこと。 そのため、アジアに植民地を持っていたイギリスやフランス、オランダといった国々のアジア支配が弱まっていたこと。
視点3	資源	アジアには、日本が今後戦争を続けていくために必要な石油などの資源が豊富にあること。
視点4	アジアの地理	日本の北にあるソ連とは日ソ中立条約を結び、北の安全を確保していたこと。 日本より南にある東南アジア諸国を植民地支配しているのが、ドイツに劣勢となっているイギリスやフランス、オランダといった国々であるということ。

最後のまとめでは、意図的に二つ以上の視点を入れてワークシートにまとめるように指示を出していた。以下に生徒のまとめの一部を示す。（表2）

**表2 生徒のまとめ（一部抜粋）**

生徒A	・ 東南アジアに進出して支配し、資源を手に入れるという狙い ・ 東南アジアに進出し、日本の支配を広げるため
生徒B	一つ目は東南アジアは当時敵対していた欧米諸国の植民地だったので攻めたかったから。 二つ目は東南アジアは日本が欲しがっていた資源がたくさんあったのでそれらが欲しかったから。

どの生徒もいずれかの視点を二つは入れながらまとめることができているので、大東亜共栄圏に対してはいくつかの見方ができるということ、その見方によっては大東亜共栄圏への評価やとらえ方が変わるということはある程度理解させることができた。特に、資源についてはどの生徒も触れてまとめを記述していたため、資源を獲得したいという狙いは十分に理解できていたと考えられる。

改善点としては、大東亜共栄圏に対して複数の視点から考えることができるということを生徒が理解できたとしても、そうした視点を別の歴史事象を考えるときにも使える視点であるということにつながらず、本時のみでとどまってしまったのではないかとこの点があげられる。今回の授業で考えたことが

大東亜共栄圏に対しての見方にとどまってしまったことで、大東亜共栄圏の見方を理解することはできても、様々な歴史を多角的にとらえて深堀する面白さを感じることができた生徒は少数であった。

生徒の歴史について考える視野をより広げていくには、生徒と事前に多角的な視点を共有し、その視点に向けて生徒が資料を解釈したり、考察しあったりする時間を取ることができればよかったと考えている。今回はいくつか資料を提示し、その資料から読み取れることを考えさせたりする時間はとっていたが、授業が進むにつれ、考える視点がどんどん増えていく形となり、混乱する様子も見られたため、先に「本音と建て前」「国際情勢」「アジアの地理」などの視点を提示して、そこに向けて生徒がお互いに資料を読み取ったり、考察したりする時間とすることで、より生徒も考えやすく、生徒なりに大東亜共栄圏の狙いを解釈する、さらに発展した授業になったのではないかと考える。

また、大東亜共栄圏には本時で扱った視点以外にも、さまざまな視点から捉えることができる題材である。どの視点を生徒と共有するかについては、教師の思いや生徒が何に興味を示すのかといったことも踏まえつつ吟味する必要がある。

実践を通して、「多面的・多角的」に生徒が思考することができる授業をするためには、生徒と考える視点を共有すること、どの視点を共有するのかということ、その視点とともに歴史を解釈することが必要であり、そこで獲得した力を使って社会を見る視点に活用することの難しさを改めて実感することができた。今後は歴史分野のみならず、地理分野や公民分野においても「多面的・多角的」な視点を養うことのできる社会科の授業実践に取り組んでいきたい。

#### 【授業で使用した主な資料】

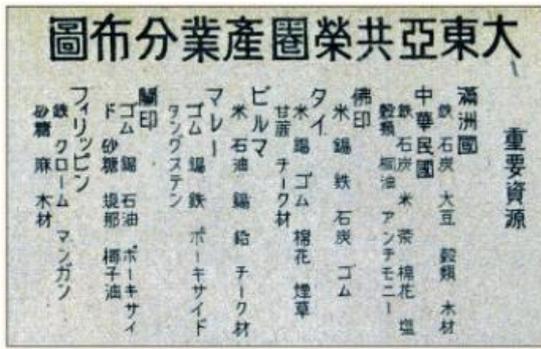


インドで配布された大東亜共栄圏のビラ

出典：『学び考える歴史』，浜島書店，2020年



『大イトウキョウドウセンゲン』の一部  
出典：『大イトウアキョウドウセンゲン』，  
大日本雄辯講談社，1944年



大東亞共榮圈産業分布圖

出典：『新しい社会 歴史』，東京書籍，2022年